

行事予定

6月

- 13日 (木) 第33回薬剤師研修会 (14日まで)
- 14日 (金) 大学院医学研究科進学説明会 (栃木)
- 15日 (土) 東京ディズニーランドツアー
- 16日 (日) 自治医科大学附属さいたま医療センター公開講座 (第1回)
- 20日 (木) 大学院医学研究科進学説明会 (さいたま医療センター)
診療代表者会議
第40回臨床検査技師研修会 (21日まで)
- 21日 (金) 臨床研究支援センター開設記念講演会
- 22日 (土) 第2回病院見学会 (看護部)
第387回現地研修会 (山口県防府市)
- 25日 (火) 評議員会 (地域社会振興財団)
- 26日 (水) 診療保険委員会
- 27日 (木) 医学部教授会・教授総会
看護学部教授会・教授総会
学長・学生懇談会
- 28日 (金) 戦略的研究基盤形成支援事業 (サーカディアン) シンポジウム
第53回管理栄養士研修会 (29日まで)

7月

- 4日 (木) 大学院看護学研究科委員会
第32回健康学習研修会 (5日まで)
- 5日 (金) 戦略的研究基盤形成支援事業 (ポストCOE) シンポジウム
- 6日 (土) 自治医科大学公開講座 (第1回)
大学院看護学研究科博士課程説明会
七夕コンサート (附属病院、さいたま医療センター)

お知らせ

理事会・評議員会が開催されました

理事室

5月27日（月）に東京の都道府県会館において理事会及び評議員会が開催されました。

11時から開催された理事会では寄附行為の定めるところにより香山理事長が議長に就き、理事長挨拶並びに永井学長、安田病院長及び百村さいたま医療センター長の現況報告の後、議案の審議が行われました。

審議された議案は、

議案第1号 平成24年度学校法人自治医科大学事業報告

議案第2号 平成24年度学校法人自治医科大学決算

であり、審議の結果、議案第1号及び第2号について原案どおり承認されました。

また、その他報告事項として

- 1 平成24年度監査報告
- 2 自治医科大学第3期中長期目標・中期計画の変更について
- 3 自治医科大学学則の一部変更

の報告がなされました。

引き続き13時から開催された評議員会では、橋本評議員（全国知事会事務総長）が互選により議長に選出され、理事長の挨拶並びに学長、病院長及びさいたま医療センター長の現況報告の後、議案の審議が行われました。

審議された議案は、

議案第1号 平成24年度学校法人自治医科大学事業報告

議案第2号 平成24年度学校法人自治医科大学決算

であり、審議の結果、議案第1号及び第2号について原案どおり承認されました。

また、その他報告事項として

- 1 平成24年度監査報告
- 2 自治医科大学第3期中長期目標・中期計画の変更について

の報告がなされました。

お知らせ

平成24年度事業報告及び決算の概要について

企画広報課、総務経理課

平成24年度事業報告及び決算は5月27日（月）に開催された理事会及び評議員会において承認されましたので、その概要をお知らせします。

■平成24年度事業報告（概要）

1 大学

- ① 第2期中長期目標・中期計画（平成20－24年度）の完成年度にあたるため、第4回の自己点検・評価を実施し、第3期中長期目標・中期計画（平成25－29年度）を策定した。
- ② 本学の建学の精神にふさわしい高い能力と適性を有する学生を確保するために、大学ホームページについて、医学部学生募集等のページのリニューアルを実施し、広報活動を強化した。
- ③ 大学リニューアル基本構想に基づき、平成24年4月から平成29年3月までの5年間、全12ステップにわたる大学本館リニューアル改修工事を開始した。
- ④ 経年劣化した体育施設のリニューアル計画について、平成24年3月に策定された体育施設等リニューアル計画に基づき、12月に基本設計書の作成作業を終了した。

2 医学部

- ① 平成24年4月 医学部第41期生入学者数 123名
- ② 医師国家試験について、受験者107名のうち106名が合格し、合格率（99.1%）は全国で1位の好成績を収めることができた。
- ③ 文部科学省の「基礎・臨床を両輪とした医学教育改革によるグローバルな医師養成事業」に本学の申請が採択された。
- ④ 優秀な学生を集めるために、本学の知名度が低い西日本への広報強化として、予備校主催の関西・九州地区の4会場に参加した。また、オープンキャンパスにおいて、新たに模擬講義を実施した。
- ⑤ 厚生労働省の「臨床研究拠点等整備事業（i P S細胞を利用した創薬研究支援事業）」に本学の申請が採択された。
- ⑥ 共同実験機器センターにおいて、フローサイトメーター室のリニューアルを行い、共同利用機器の使用環境を整備し、研究活動の充実を図った。

3 看護学部

- ① 国家試験について、看護師は105名が受験し101名が合格（合格率96.2%）、助産師は9名が受験し9名全員が合格（合格率100.0%）、保健師は105名が受験し103名が合格（合格率98.1%）した。
- ② 看護学部教員全員に対して、FDマップ活用のための組織整備を行い、自己目標をもつことの意識が浸透した。また、次年度に向けたティーチングポートフォリオの導入の検討を行った。
- ③ 「カウンセリングルーム便り」の全学生及び教員への定期的な配付、大学ホームページによる利用の案内、学生に対するカウンセラーの積極的な紹介などにより、カウンセリングについての学生の認知度が改善され、効率的な利用につながった。

4 大学院医学研究科

- ① 大学院教育のさらなる充実を目的として、新カリキュラムを新1年生から適用し、博士課程カリキュラムの実質化を推進した。
- ② 文部科学省の「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」に採択され、「がん治療のブレイクスルーを担う医療人育成」プログラムを開始した。

- ③ 学位審査の透明性・客観性を確保するため、学外審査委員を積極的に登用した。厳格公正な学位審査を行うため、担当指導教員からの委員推薦制度を廃止するとともに、学位審査委員の学内公募制度を新たに導入した。

5 大学院看護学研究科

- 平成24年度に開設した博士後期課程において、高度な看護学教育を進めた。

6 地域医療への貢献と卒業生への支援

- 卒業生の臨床研究を支援するため、73名の教員が参加して地域医療研究支援チームの活動を行い、臨床研究ネットワークの強化・再構築に向けて取り組んだ。

7 教育研究施設

- ① 地域医療学センターにおいては、全国地域医療教育協議会のネットワークの拡大推進、地域医療教育の全国実態調査の分析及びその結果に関する学会発表（日本医学教育学会、日本プライマリ・ケア連合学会）を行った。
- ② 図書館においては、4月から医学部教育・研究棟において稼働した、遠隔操作による講義収録システムにより、複数の教室の講義が同時に撮影可能となり、サービスが向上した。

8 附属病院（病床数1,132床）

- ① 病院の運営について、組織横断的に検討し、病院経営に資する組織として企画経営部を設置した。
- ② 医師事務補助員、看護補助員等を配置し、医師、看護師の業務負担を軽減した。
- ③ がん診療連携を強化するため、地域医療連携部総合相談室内にがん相談支援室を設置し、専任のソーシャルワーカーが相談を受ける体制を構築した。
- ④ 退院患者からの要望に応え、1月に外来透析センターを開設した。
- ⑤ 外来リニューアル工事について、本館2階南病棟、南棟1・2階外来部門及び正面玄関の改修を進めた。
- ⑥ 薬剤師の特殊有床病床への配置など、チーム医療の推進に取り組んだ。

9 附属さいたま医療センター（病床数597床）

- ① センターの運営について、組織横断的に検討し、病院経営に資する組織として企画経営部を設置した。
- ② 11月から退院調整看護師を配置して退院支援のための早期スクリーニングを開始し、多職種連携による計画的な退院支援の体制づくりに取り組んだ。
- ③ 5大がん地域連携バスを活用し、かかりつけ医との役割分担を明確にしたがん治療計画を開始した。
- ④ 病棟リニューアル計画について、本館病棟（4階から6階まで）東側の改修工事を終了した。
- ⑤ 管理研究棟及び立体駐車場の建設について、施工業者を選定し、平成25年4月から立体駐車場の建設に着工することとなった。

10 大学の管理運営

- ① 東日本大震災後の建物状況調査を実施した。また、自家発電施設設備を増強するため、ボイラー3台のうち1台の燃料を二重化（重油+都市ガス）した。さらに、災害用品等について、衛星携帯電話等の導入及び非常用保存食等の整備を行った。
- ② ハラスメントの相談窓口として、相談しやすい環境の整備を図るため、平成25年度から、新たにハラスメント相談所を設置し、内部相談員のほかに第三者機関を導入することとした。

■平成24年度決算（概要）

<1. 施設・設備整備の主なもの>

- ①本館リニューアル工事（2,536百万円）、体育施設等リニューアル基本・実施設計（44百万円）（大学会計）
- ②MRI整備（2台）（881百万円）、外来透析装置整備（127百万円）、放射線治療計画用CT整備（102百万円）（病院会計）
- ③外来リニューアル工事（1,127百万円）（附属病院リニューアル事業特別会計）
- ④心血管アンギオシステム整備（216百万円）、総合医療情報システム更新（619百万円）（さいたま医療センター会計）
- ⑤病棟リニューアル工事（1,519百万円）、管理研究棟・立体駐車場実施設計（17百万円）（附属さいたま医療センターリニューアル事業特別会計）

<2. 会計別決算額（資金収支）>

1. 大学会計

(単位：千円)

収 入 科 目	平成24年度	平成23年度	比 較	説 明
1 学生生徒等納付金収入	3,335,146	3,265,559	69,587	学生数の増
授業料収入	1,694,074	1,659,218	34,856	医学部学納金単価 3,600千円
実験実習料収入	469,308	458,492	10,816	看護学部学納金単価 1,350千円
施設設備資金収入	974,717	953,167	21,550	
2 手数料収入	162,626	143,293	19,333	
入学検定料収入	160,719	141,449	19,270	
3 寄附金収入	946,026	1,057,772	△ 111,746	教員の研究に対する民間企業等からの寄附金
4 補助金収入	9,418,305	9,012,205	406,100	
国庫補助金収入	3,285,255	2,920,155	365,100	私立大学等経常費補助金の増等
地方公共団体負担金収入	6,132,300	6,091,800	40,500	医学部入学定員増に伴う増
5 資産運用収入	458,076	546,441	△ 88,365	受取利息収入の減
6 資産売却収入	4,514	2,931	1,583	有価証券償還益等
7 事業収入	799,020	458,368	340,652	受託事業の会計処理変更に伴う増
8 雑収入	306,661	346,943	△ 40,282	競争的資金に係る間接経費受入等
9 その他の収入	4,525,168	7,142,877	△ 2,617,709	減価償却引当特定資産から第2号基本金引当資産への積立資金125億円、大学リニューアルのための第2号基本金引当資産の取崩27億円等
10 内部取引	15,000	15,000	0	
小 計	19,970,542	21,991,389	△ 2,020,847	
11 資産売却収入	8,720,486	6,326,382	2,394,104	資産運用の取引累計額等
12 資金収入調整勘定等	△ 268,804	294,748	△ 563,552	
13 前年度繰越支払資金	2,023,613	3,330,689	△ 1,307,076	
収入の部合計	30,445,837	31,943,208	△ 1,497,371	

*各会計の大科目中に示した科目の額は内数であるが、その合計は大科目の額と一致しない場合がある。

支 出 科 目	平成24年度	平成23年度	比 較	説 明
1 人件費支出	6,375,940	6,534,573	△ 158,633	対前年度比2.4%減
教員人件費支出	3,956,574	3,921,323	35,251	欠員補充による教員給与の増等
職員人件費支出	1,917,891	1,935,508	△ 17,617	
退職金支出	448,736	624,148	△ 175,412	
2 教育研究経費支出	2,768,360	2,579,686	188,674	教育研究棟本格稼働に伴う経費の増等
3 管理経費支出	918,054	1,080,870	△ 162,816	(H23は医学部教育研究棟移転費、教職員住宅改修費あり)
4 施設関係支出	3,129,961	5,199,067	△ 2,069,106	(H23は医学部教育研究棟建設工事あり)
5 設備関係支出	831,383	843,350	△ 11,967	(H23は医学部教育研究棟建設による備品整備等)
6 資産運用支出	2,452,936	3,101,518	△ 648,582	減価償却引当特定資産（1,202,936千円）
7 その他の支出	2,605,051	2,539,125	65,926	大学リニューアルに係る第2号基本金引当資産（12.5億円）への積立
8 内部取引	110,000	107,500	2,500	修学資金貸与額等
小 計	19,191,685	21,985,689	△ 2,794,004	病院への臨床実習委託費等
9 資産運用支出	8,780,889	8,115,945	664,944	資産運用の取引累計額等
10 資金支出調整勘定等	444,594	△ 182,039	626,633	
11 次年度繰越支払資金	2,028,669	2,023,613	5,056	
支出の部合計	30,445,837	31,943,208	△ 1,497,371	

2. 病院会計

(単位：千円)

収入科目	平成24年度	平成23年度	比較	説明
1 寄附金収入	2,026	1,328	698	
2 補助金収入	1,114,885	1,220,433	△ 105,548	治験拠点病院活性化事業補助金等の減
3 資産運用収入	331,705	328,738	2,967	レジデントハウス利用料の増
4 資産売却収入	1,031	1,205,268	△ 1,204,237	有価証券償還益 (H23は減価償却引当資産への積立資金分あり)
5 事業収入	503,133	231,651	271,482	治験に係る会計処理変更による増
6 医療収入	35,763,869	35,492,282	271,587	対前年度比0.8%増
(外来診療収入)	(10,634,225)	(10,344,800)	(289,425)	・ 外来診療収入 同 2.8%増
(入院診療収入)	(24,695,426)	(24,722,317)	(△26,891)	1日平均患者数 (人) H23 2,645 → H24 2,698 (+53) 1人1日当り診療収入 (円) 16,032 → 16,156 (+124) ・ 入院診療収入 同 0.1%減
(健診センター収入)	(434,218)	(425,165)	(9,053)	病床稼働率 (%) H23 86.5 → H24 85.6 (△0.9) 1人1日当り診療収入 (円) 69,299 → 70,032 (+733) ・ 健診センター収入 同 2.1%増 (一般健診) H23 33 → H24 33 (±0) 1日平均受診者数 (人) 52,899 → 53,641 (+742) 1人1日当り診療収入 (円)
7 雑収入	74,429	116,445	△ 42,016	
8 その他の収入	2,585,301	2,921,127	△ 335,826	減価償却引当資産取崩
9 内部取引	90,000	90,000	0	大学からの臨床実習委託費
小計	40,466,379	41,607,272	△ 1,140,893	
10 資産売却収入	4,607,016	7,404,518	△ 2,797,502	資産運用の取引累計額等
11 資金収入調整勘定等	340,837	△ 918,556	1,259,393	
12 前年度繰越支払資金	870,837	1,181,438	△ 310,601	
収入の部合計	46,285,069	49,274,672	△ 2,989,603	

支出科目	平成24年度	平成23年度	比較	説明
1 人件費支出	15,129,588	14,423,127	706,461	対前年度比 4.9%増
教員人件費支出	3,326,003	3,311,044	14,959	治験に係る会計処理変更による増
職員人件費支出	11,251,095	10,680,172	570,923	診療体制強化のための技師、看護師の増等
退職金支出	552,490	431,911	120,579	定年退職者の増
2 医療経費支出	17,378,606	17,164,632	213,974	対前年度比 1.2%増
医薬材料費支出	11,312,924	11,308,335	4,589	対保険収入比率 33.7% (23年度 34.0%)
消耗品費支出	1,228,949	1,111,147	117,802	感染予防関係、内視鏡関係消耗品の増等
委託料支出	3,271,514	3,317,609	△ 46,095	病院情報システムプログラム開発費の減等
3 管理経費支出	735,450	698,598	36,852	
4 施設関係支出	104,020	1,788,247	△ 1,684,227	病棟改修工事(手摺取付等)、MRI装置シールド工事、中央材料室機器設置に伴う1次側工事、中央手術部系統電話システム更新工事等
5 設備関係支出	2,487,586	2,028,987	458,599	MRI装置2台(西棟別館)、外来透析装置(西棟別館)、放射線治療計画用CT、患者案内表示盤(更新)の整備等
6 資産運用支出	3,406,170	4,389,035	△ 982,865	減価償却(3,205,135千円)及び退職給与(201,035千円)各引当特定資産への積立
7 内部取引	1,141,608	761,790	379,818	リニューアル会計への繰出金(1,141,608千円)等
小計	40,383,028	41,254,416	△ 871,388	
8 資産運用支出	4,607,015	7,404,518	△ 2,797,503	資産運用の取引累計額等
9 資金支出調整勘定等	△ 116,214	△ 255,099	138,885	
10 次年度繰越支払資金	1,411,240	870,837	540,403	
支出の部合計	46,285,069	49,274,672	△ 2,989,603	

3. 附属病院リニューアル事業特別会計

(単位：千円)

収入科目	平成24年度	平成23年度	比較	説明
1 内部取引	1,126,608	746,790	379,818	病院会計からの繰入金
収入の部合計	1,126,608	746,790	379,818	

支出科目	平成24年度	平成23年度	比較	説明
1 医療経費支出	8,205	7,524	681	医療用消耗品
2 管理経費支出	9,773	4,566	5,207	外来リニューアル改修工事に係る移転作業等
3 施設関係支出	750,919	693,154	57,765	外来リニューアル改修工事費用
4 設備関係支出	357,711	41,546	316,165	透析装置(入院透析センター)、歯科用ユニット(歯科口腔外科)、電動治療椅子(耳鼻咽喉科)の整備等
支出の部合計	1,126,608	746,790	379,818	

4. さいたま医療センター会計

(単位：千円)

収 入 科 目	平成24年度	平成23年度	比 較	説 明
1 寄附金収入	2,000	2,000	0	
2 補助金収入	73,899	49,014	24,885	臨床研修費補助金、周産期医療施設運営費補助金等
3 資産運用収入	100,079	106,518	△ 6,439	受取利息収入の減
4 資産売却収入	2,157	1,458	699	有価証券償還益
5 事業収入	46,552	16,227	30,325	治験に係る会計処理変更による増
6 医療収入	19,471,895	18,836,753	635,142	対前年度比3.4%増
(外来)	(5,530,185)	(5,286,863)	(243,322)	・外来診療収入 同 4.6%増
(入院)	(13,914,616)	(13,522,905)	(391,711)	1日平均患者数(人) H23 1,332 → H24 1,346 (+14) 1人1日当り診療収入(円) 16,263 → 16,838 (+575) ・入院診療収入 同 2.9%増
(脳ドック)	(27,094)	(26,985)	(109)	病床稼働率(%) H23 82.3 → H24 84.1 (+1.8) 1人1日当り診療収入(円) 79,354 → 79,282 (△72) ・脳ドック 同 0.4%増 H23 6 → H24 6 (±0) 1日平均受診者数(人) 91,786 → 91,225 (△561) 1人1日当り診療収入(円)
7 雑収入	51,134	64,134	△ 13,000	
8 その他の収入	2,154,768	1,334,026	820,742	減価償却引当資産取崩
9 内部取引	10,000	10,000	0	大学からの臨床実習委託費
小 計	21,912,484	20,420,130	1,492,354	
10 資産売却収入	2,899,180	4,797,863	△ 1,898,683	資産運用の取引累計額等
11 資金収入調整勘定等	△128,211	△ 461,031	332,820	
12 前年度繰越支払資金	722,069	996,716	△ 274,647	
収入の部合計	25,405,522	25,753,678	△ 348,156	

支 出 科 目	平成24年度	平成23年度	比 較	説 明
1 人件費支出	7,393,284	7,186,240	207,044	対前年度比2.9%増
教員人件費支出	1,572,248	1,552,391	19,857	診療実態に合わせた増等
職員人件費支出	5,679,288	5,434,075	245,213	診療体制強化のための技師、看護師の増等
退職金支出	141,748	199,774	△ 58,026	
2 医療経費支出	9,834,461	9,862,517	△ 28,056	対前年度比 0.3%減
医薬材料費支出	6,554,594	6,594,369	△ 39,775	対保険収入比率 34.7% (23年度 36.1%)
消耗品費支出	577,671	560,226	17,445	
委託料支出	1,824,299	1,839,705	△ 15,406	発電機設備保守委託の減
3 管理経費支出	440,446	425,611	14,835	
4 借入金等利息支出	16,971	18,359	△ 1,388	借入金残高減少による減
5 借入金等返済支出	150,000	99,996	50,004	借入金返済計画変更
6 施設関係支出	44,534	117,936	△ 73,402	(H23は患者バーコード認証システム整備費あり)
7 設備関係支出	965,507	273,316	692,191	総合医療情報システム更新整備、心血管アンギオシステム更新整備等
8 資産運用支出	1,350,000	1,250,000	100,000	減価償却引当特定資産への積立
9 その他の支出	9	0	9	
10 内部取引	1,536,064	1,177,261	358,803	さいたまリニューアル会計への繰出金
小 計	21,731,276	20,411,236	1,320,040	
11 資産運用支出	2,899,180	4,797,863	△ 1,898,683	資産運用の取引累計額等
12 資金支出調整勘定等	1,245	△ 177,490	178,735	
13 次年度繰越支払資金	773,821	722,069	51,752	
支出の部合計	25,405,522	25,753,678	△ 348,156	

5. 附属さいたま医療センターリニューアル事業特別会計

(単位：千円)

収 入 科 目	平成24年度	平成23年度	比 較	説 明
1 内部取引	1,536,064	1,177,261	358,803	さいたま医療センター会計からの繰入金
収入の部合計	1,536,064	1,177,261	358,803	

支 出 科 目	平成24年度	平成23年度	比 較	説 明
1 医療経費支出	25,854	22,373	3,481	医療用消耗品
2 管理経費支出	2,725	7,997	△ 5,272	病棟移転引越し費用等
3 施設関係支出	1,480,331	1,114,223	366,108	本館東病棟改修工事費用、管理研究棟・立体駐車場実施設計業務等
4 設備関係支出	27,154	32,668	△ 5,514	経年劣化機器備品更新等
支出の部合計	1,536,064	1,177,261	358,803	

6. 整備会計

(単位：千円)

収入科目	平成24年度	平成23年度	比較	説明
1 補助金収入	1,208,868	1,316,688	△ 107,820	地域医療等振興自治宝くじ交付金
2 資産運用収入	148	92	56	受取利息収入の増
小計	1,209,016	1,316,780	△ 107,764	
3 資産売却収入	0	0	0	
収入の部合計	1,209,016	1,316,780	△ 107,764	

支出科目	平成24年度	平成23年度	比較	説明
1 施設関係支出	471,337	294,819	176,518	主な事業 大学関係 ・ シミュレーションセンター備品等 附属病院関係 ・ 注射薬自動払出システム等
2 設備関係支出	444,177	898,322	△ 454,145	さいたま医療センター関係 ・ 手術用顕微鏡等 その他 ・ エネルギープラントオイルタンク増設工事等
3 その他の支出	0	1,500	△ 1,500	
小計	915,514	1,194,641	△ 279,127	
4 資産運用支出	295,002	122,139	172,863	資産運用取引の増
5 資金支出調整勘定等	△ 1,500	0	△ 1,500	
支出の部合計	1,209,016	1,316,780	△ 107,764	

7. 振興会計

(単位：千円)

収入科目	平成24年度	平成23年度	比較	説明
1 寄附金収入	26,000	30,000	△ 4,000	全国モーターボート競走施行者協議会からの寄附金
2 資産運用収入	52,858	56,379	△ 3,521	受取利息収入の減
3 資産売却収入	34	35	△ 1	有価証券償還益
4 雑収入	856	131	725	文献複写料等
5 その他の収入	1,997,598	1,048,076	949,522	奨学資金引当資産の取崩 669,050千円、第3号基本金引当資産の取崩 900,000千円、奨学資金回収収入 428,548千円
6 内部取引	10,000	7,500	2,500	栃木県地域枠学生への奨学金貸与相当分(大学会計からの繰入)
小計	2,087,346	1,142,121	945,225	
7 資産売却収入	584,270	473,249	111,021	資産運用の取引累計額等
8 前年度繰越支払資金	20,028	20,552	△ 524	
収入の部合計	2,691,644	1,635,922	1,055,722	

支出科目	平成24年度	平成23年度	比較	説明
1 教育研究経費支出	36,183	37,711	△ 1,528	主な事業
2 管理経費支出	22,373	26,516	△ 4,143	・ 地域医療実地研修事業 ・ 卒業生特別指導事業 ・ 地域医療振興事業
3 設備関係支出	265	1,327	△ 1,062	・ 若手研究者研究奨励事業 ・ 医療情報収集提供事業 ・ 国際交流事業
4 資産運用支出	1,338,548	407,126	931,422	第3号基本金引当資産取崩分、奨学資金回収分、栃木地域枠分の奨学資金引当特定資産への繰入
5 その他の支出	718,250	693,651	24,599	奨学資金貸与(669,050千円)等
小計	2,115,619	1,166,331	949,288	
6 資産運用支出	554,798	449,826	104,972	資産運用の取引累計額等
7 資金支出調整勘定等	310	△ 263	573	
8 次年度繰越支払資金	20,917	20,028	889	
支出の部合計	2,691,644	1,635,922	1,055,722	

< 3. 法人全体決算額 >

資 金 収 支 計 算 書

収 入 の 部

(単位: 円)

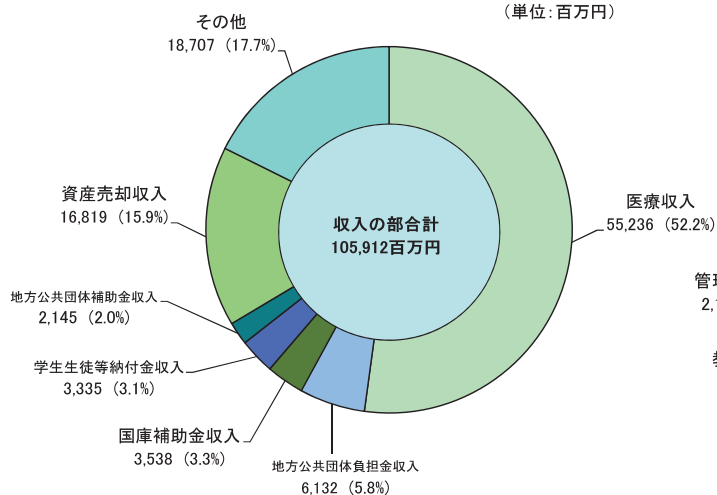
科 目	予 算	決 算	差 異
学 生 生 徒 等 納 付 金 収 入	(3,319,000,000)	(3,335,145,767)	(△16,145,767)
手 数 料 収 入	(135,500,000)	(162,626,500)	(△27,126,500)
寄 附 金 収 入	(984,000,000)	(976,051,268)	(7,948,732)
補 助 金 収 入	(11,144,000,000)	(11,815,958,110)	(△671,958,110)
国 庫 補 助 金 収 入	3,006,000,000	3,538,350,026	△532,350,026
地 方 公 共 団 体 補 助 金 収 入	2,004,700,000	2,144,808,084	△140,108,084
地 方 公 共 団 体 負 担 金 収 入	6,132,300,000	6,132,300,000	0
そ の 他 補 助 金 収 入	1,000,000	500,000	500,000
資 産 運 用 収 入	(1,023,100,000)	(942,864,666)	(80,235,334)
資 産 売 却 収 入	(26,272,000,000)	(16,818,687,008)	(9,453,312,992)
資 事 業 収 入	(577,000,000)	(1,348,705,172)	(△771,705,172)
医 療 収 入	(54,470,000,000)	(55,235,764,325)	(△765,764,325)
雑 収 入	(107,000,000)	(433,080,045)	(△326,080,045)
前 受 金 収 入	(153,000,000)	(74,508,800)	(78,491,200)
そ の 他 の 収 入	(20,065,400,000)	(22,681,913,154)	(△2,616,513,154)
資 金 収 入 調 整 勘 定 金	(△4,983,000,000)	(△11,549,764,331)	(6,566,764,331)
前 年 度 繰 越 支 払 資 金	(3,112,000,000)	(3,636,548,358)	
収 入 の 部 合 計	116,379,000,000	105,912,088,842	10,466,911,158

支 出 の 部

科 目	予 算	決 算	差 異
人 件 費 支 出	(30,352,000,000)	(28,898,813,213)	(1,453,186,787)
教 育 研 究 経 費 支 出	(3,182,500,000)	(2,804,542,851)	(377,957,149)
医 療 経 費 支 出	(27,641,000,000)	(27,247,125,288)	(393,874,712)
医 管 理 経 費 支 出	(2,924,400,000)	(2,128,822,782)	(795,577,218)
借 入 金 等 利 息 支 出	(17,000,000)	(16,971,338)	(28,662)
借 入 金 等 返 済 支 出	(150,000,000)	(150,000,000)	0
施 設 関 係 支 出	(7,664,000,000)	(5,981,102,075)	(1,682,897,925)
設 備 関 係 支 出	(5,830,000,000)	(5,302,153,616)	(527,846,384)
設 資 産 運 用 支 出	(31,723,000,000)	(25,684,537,805)	(6,038,462,195)
そ の 他 の 支 出	(6,487,100,000)	(11,292,431,701)	(△4,805,331,701)
[予 備 費]	(50,000,000)		(50,000,000)
資 金 支 出 調 整 勘 定 金	(△2,754,000,000)	(△7,829,059,212)	(5,075,059,212)
次 年 度 繰 越 支 払 資 金	(3,112,000,000)	(4,234,647,385)	(△1,122,647,385)
支 出 の 部 合 計	116,379,000,000	105,912,088,842	10,466,911,158

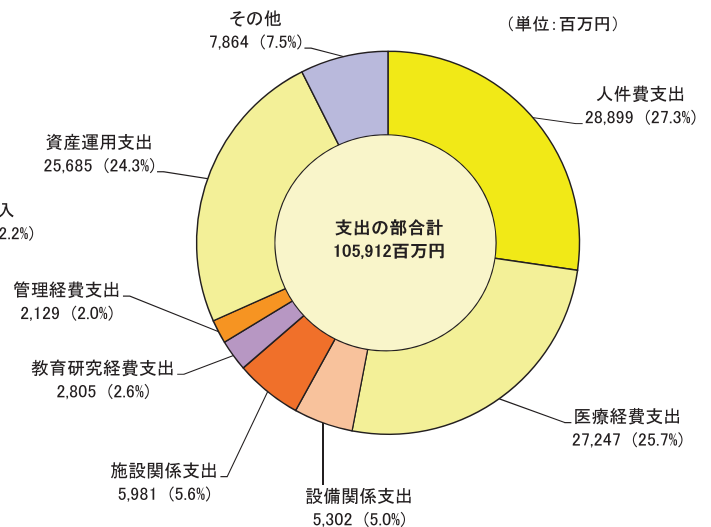
収 入 の 部

(単位: 百万円)



支 出 の 部

(単位: 百万円)



消費収支計算書

消費収入の部

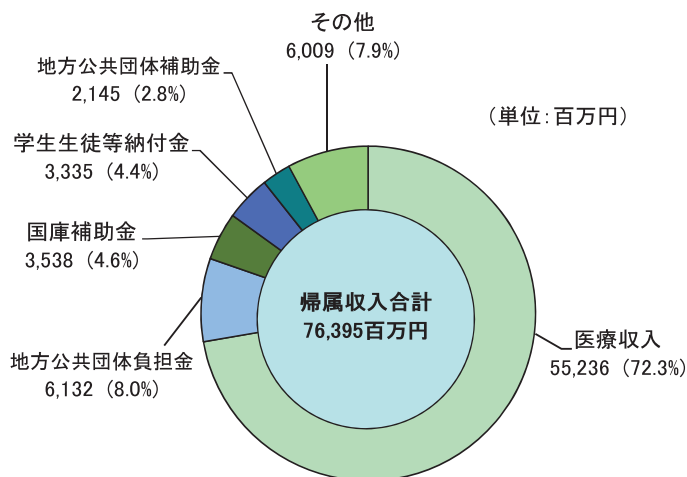
(単位：円)

科 目	予 算	決 算	差 異
学 生 生 徒 等 納 付 金	(3,319,000,000)	(3,335,145,767)	(△16,145,767)
手 寄 補 助 金	(135,500,000)	(162,626,500)	(△27,126,500)
国 庫 補 助 金	(1,066,000,000)	(1,035,337,189)	(30,662,811)
地 方 公 共 団 体 補 助 金	(11,144,000,000)	(11,815,958,110)	(△671,958,110)
所 属 公 共 団 体 補 助 金	3,006,000,000	3,538,350,026	△532,350,026
資 産 運 売 収 入	2,004,700,000	2,144,808,084	△140,108,084
事 業 収 入	6,132,300,000	6,132,300,000	0
医 雑 収 入	1,000,000	500,000	500,000
雑 収 入	(1,023,100,000)	(942,864,666)	(80,235,334)
基 本 金 組 入 額	(1,000,000)	(6,888,460)	(△5,888,460)
消 費 収 入 の 部 合 計	(577,000,000)	(1,348,705,172)	(△771,705,172)
	(54,470,000,000)	(55,235,764,325)	(△765,764,325)
	(107,000,000)	(2,511,820,272)	(△2,404,820,272)
帰 属 収 入 合 計	71,842,600,000	76,395,110,461	△4,552,510,461
基 本 金 組 入 額 合 計	△10,098,000,000	△1,126,477,322	△8,971,522,678
消 費 収 入 の 部 合 計	61,744,600,000	75,268,633,139	△13,524,033,139

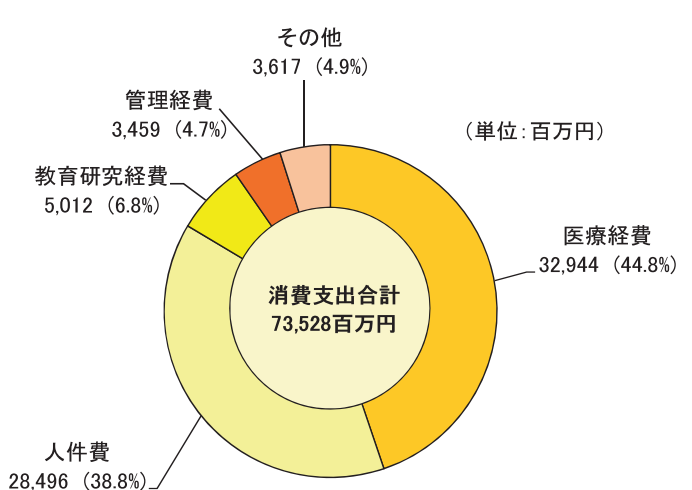
消費支出の部

科 目	予 算	決 算	差 異
人 件 費	(30,506,000,000)	(28,495,921,585)	(2,010,078,415)
教 育 研 究 経 費	(4,949,500,000)	(5,012,483,440)	(△62,983,440)
医 療 経 費	(32,513,000,000)	(32,943,606,886)	(△430,606,886)
管 理 経 費	(3,622,400,000)	(3,458,908,570)	(163,491,430)
借 入 金 等 利 息	(17,000,000)	(16,971,338)	(28,662)
資 産 処 分 差 額	(145,000,000)	(871,386,201)	(△726,386,201)
徴 収 不 能 引 当 金 繰 入 額	(2,700,000,000)	(2,728,760,756)	(△28,760,756)
徴 収 不 能 引 当 金 繰 入 額	(3,000,000)	(0)	(3,000,000)
[予 備 費]	(50,000,000)	(0)	(50,000,000)
消 費 支 出 の 部 合 計	74,505,900,000	73,528,038,776	977,861,224
当 年 度 消 費 収 入 超 過 額	0	1,740,594,363	
当 年 度 消 費 支 出 超 過 額	12,761,300,000	0	
前 年 度 繰 越 消 費 支 出 超 過 額	46,925,000,000	40,568,396,202	
翌 年 度 繰 越 消 費 支 出 超 過 額	59,686,300,000	38,827,801,839	

帰属収入の部



消費支出の部



貸 借 対 照 表

資 産 の 部

(単位：円)

科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固 定 資 産			
有 形 固 定 資 産			
土 地	11,093,031,966	11,077,112,437	15,919,529
建 物 (注2)	66,344,089,675	66,289,515,896	54,573,779
構 築 物 (注2)	2,953,205,464	3,542,335,853	△ 589,130,389
その他の有形固定資産 (注2)	24,167,821,839	22,457,731,330	1,710,090,509
小 計	104,558,148,944	103,366,695,516	1,191,453,428
その他の固定資産			
退職給与引当特定資産	8,029,664,507	7,828,786,276	200,878,231
減価償却引当特定資産	42,184,127,934	42,896,126,203	△ 711,998,269
その他の (注2)	21,379,259,424	22,608,059,425	△ 1,228,800,001
小 計	71,593,051,865	73,332,971,904	△ 1,739,920,039
固 定 資 産 合 計	176,151,200,809	176,699,667,420	△ 548,466,611
流 動 資 産			
現 金 預 金	4,234,647,385	3,636,548,358	598,099,027
未 収 入 金 (注3)	10,483,121,064	10,678,311,677	△ 195,190,613
その他の流動資産	2,560,162,264	2,855,393,126	△ 295,230,862
流 動 資 産 合 計	17,277,930,713	17,170,253,161	107,677,552
資 産 の 部 合 計	193,429,131,522	193,869,920,581	△ 440,789,059

負 債 の 部

科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固 定 負 債			
長期借入金	1,183,354,000	1,333,354,000	△ 150,000,000
長期未払金	776,396,570	865,843,933	△ 89,447,363
退職給与引当金	15,962,024,048	18,443,655,903	△ 2,481,631,855
固 定 負 債 合 計	17,921,774,618	20,642,853,836	△ 2,721,079,218
流 動 負 債			
短期借入金	150,000,000	150,000,000	0
未 払 金	4,781,285,811	4,965,206,557	△ 183,920,746
その他の流動負債	2,218,671,210	2,621,531,990	△ 402,860,780
流 動 負 債 合 計	7,149,957,021	7,736,738,547	△ 586,781,526
負 債 の 部 合 計	25,071,731,639	28,379,592,383	△ 3,307,860,744

基 本 金 の 部

科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
第 1 号 基 本 金	188,521,196,726	184,964,904,954	3,556,291,772
第 2 号 基 本 金	7,383,182,895	8,912,997,345	△ 1,529,814,450
第 3 号 基 本 金	6,855,822,101	7,755,822,101	△ 900,000,000
第 4 号 基 本 金	4,425,000,000	4,425,000,000	0
基 本 金 の 部 合 計	207,185,201,722	206,058,724,400	1,126,477,322

消 費 収 支 差 額 の 部

科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
翌年度繰越消費支出超過額	38,827,801,839	40,568,396,202	△ 1,740,594,363
消費収支差額の部合計	△ 38,827,801,839	△ 40,568,396,202	1,740,594,363
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	193,429,131,522	193,869,920,581	△ 440,789,059

(注 記)

1-1. 重要な会計方針

(1) 引当金の計上基準

- ・徴収不能引当金 … 医療収入の未収入金においては、過去の徴収不能実績率から見積もった見込額を、また、修学資金貸付金は貸付金全額を徴収不能に備えるために計上している。
- ・退職給与引当金 … 退職金の支給に備えるため、期末要支給額の100%を計上している。

(2) その他の重要な会計方針

- ・有価証券の評価基準及び評価方法 … 満期保有目的有価証券の評価基準は償却原価法であり、その他の有価証券の評価基準は、移動平均法による原価法である。
- ・たな卸資産の評価基準及び評価方法 … 最終仕入原価法である。
- ・預り金その他経過項目に係る収支の表示方法 … 預り金に係る収入と支出は相殺して表示している。
- ・食堂その他教育活動に付随する活動にかかる収支の表示方法 … 補助活動に係る収支は総額で表示している。

1-2. 重要な会計方針の変更等

(1) 減価償却の方法について

従来、残存価額を取得価額の10%としていたが、残存価額の経済的実態を勘案して、備忘価額1円まで償却する方法に変更した。この変更により、減価償却額は、従来の方法によった場合に比して、1,615,149,347円多く計上されている。

(2) 退職給与引当金について

従来、長期雇用を前提とした支給率に基づく期末要支給額の100%を退職給与引当金として計上していたが、雇用期間の実績を勘案して、期末時点の支給率に基づく要支給額の100%を退職給与引当金として計上する方法に変更した。この変更により、従来の方法によった場合に比して、退職給与引当金戻入額が2,078,740,227円計上され、退職給与引当金繰入額が883,275,647円少なく計上されている。

(3) 受託事業について

従来、受託事業に関する費用について受託期間終了時まで繰延計上していたが、受託事業が多岐にわたり収入と費用に明確な対応関係を求めることが困難なため、発生時に費用計上する方法に変更した。

また、収入についてもそれにあわせて入金時に収入計上する方法に変更した。

この変更により、従来の方法によった場合に比して、受託事業収入が607,967,166円、多く計上されている。

また、教員人件費支出116,376,135円、職員人件費支出292,364,318円、教育研究経費支出消耗品費支出26,146,749円 同光熱水費支出11,435,854円、同旅費交通費支出14,351,845円、同印刷製本費支出1,405,920円、同役務費支出13,793,925円、同支払手数料支出3,720,050円、同委託料支出16,525,037円、同雑費支出4,667,695円、医療経費支出委託料支出4,472,045円、その他経費1,624,019円、合計で506,883,592円多く計上されている。

2. 減価償却額の累計額の合計額 86,140,118,150 円

3. 徴収不能引当金の合計額

医療収入の未収入金 433,648,234 円

修学資金貸付金 29,363,131,610 円

合 計 29,796,779,844 円

4. 担保に供されている資産の種類及び額担保に供されている資産はない。

5. 翌会計年度以降の会計年度において基本金への組入れを行うこととなる額 2,350,829,445 円

6. その他財政及び経営の状況を正確に判断するために必要な事項

(1) 有価証券の時価情報

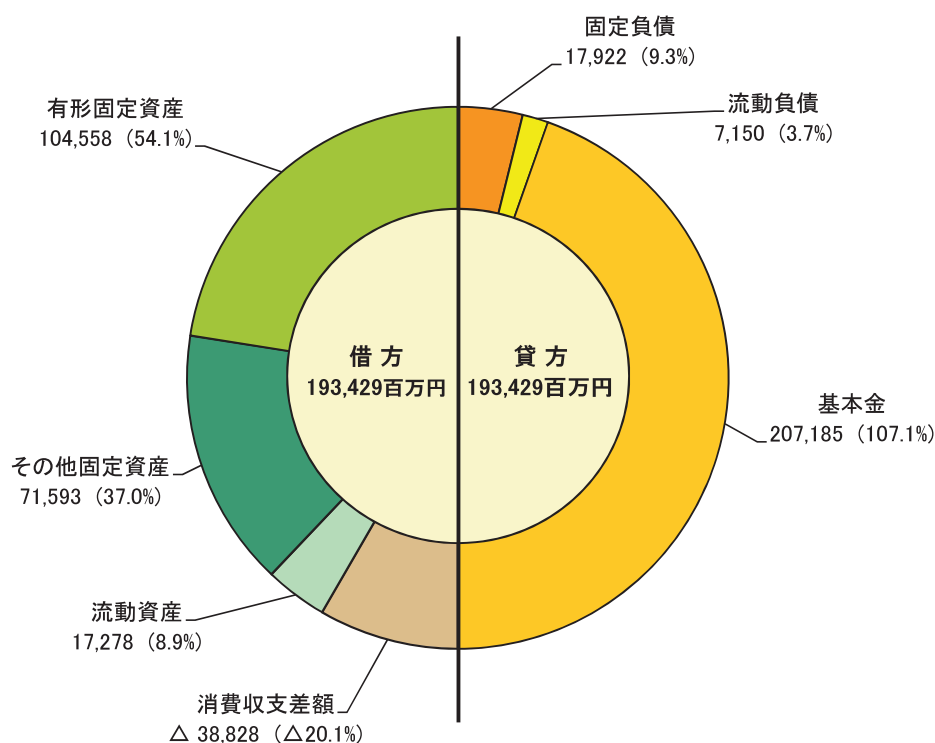
(単位：円)

種 類	当年度 (平成25年3月31日)		
	貸借対照表計上額A	時 価 B	差 額 B - A
時価が貸借対照表計上額を超えるもの (うち満期保有目的の債券)	43,095,065,345 (41,138,679,938)	43,807,462,923 (41,834,476,600)	712,397,578 (695,796,662)
時価が貸借対照表計上額を超えないもの (うち満期保有目的の債券)	24,663,933,520 (24,657,996,020)	23,895,451,500 (23,889,514,000)	△ 768,482,020 (△ 768,482,020)
合 計 (うち満期保有目的の債券)	67,758,998,865 (65,796,675,958)	67,702,914,423 (65,723,990,600)	△ 56,084,442 (△ 72,685,358)

(2) 「所有権移転外ファイナンス・リース取引」については、重要性が認められないことから記載を省略している。

貸 借 対 照 表

(単位：百万円)



お知らせ

医学部最優秀教員賞が授与されました

学事課

平成23年度における医学部の授業を対象に、最優秀教員賞の受賞者が次のとおり決まりました。

この賞は、学生教育に尽力し、優れた功績を残した教員を表彰するために、平成13年度に創設され、学生による評価等に基づき、教務委員会において総合的に判断して決定されるものです。

授与式は、5月8日(水)に記念棟5階の会長室で、市村副学長、佐田教務委員長、岡崎医学教育センター長の列席のもと行われ、永井学長から表彰状が授与されました。

所 属	職 名	氏 名
教育学	教 授	菊地 元史
地域医療学	准教授	黒木 茂広
整形外科学	准教授	関矢 仁
脳神経外科学	講 師	横田 英典



お知らせ

平成25年度松韻会総会が開催されました

学事課

5月18日（土）、地域医療情報研修センター大講堂において、平成25年度「松韻会総会」が開催されました。

松韻会は、「自分の死後、遺体を医学の教育と研究のために役立てたい」と志し、本学に生前献体登録をしてくださった方々によって組織された団体です。

来賓として、下野市長 広瀬寿雄様をお招きし、本学からは永井学長を始め関係教職員が列席したほか、会員、家族など約300名が出席されました。

まず、総会の冒頭に成願された方々に対する黙祷を捧げ、伊沢会長の主催者挨拶に始まり、永井学長からの挨拶、広瀬下野市長から来賓としてのご挨拶をいただきました。次いで、昨年度に新しく会員になられた方々に永井学長から感謝状を贈呈いたしました。

続いて、本学附属病院緩和ケア部 臨床心理士 稲田美和子先生から「よく生き、よく逝くためのお話（緩和ケア入門）」と題したご講演をいただきました。講演の最後には、稲田先生から「二胡」の演奏をしていただき、会員の皆様は二胡の美しい調べに心を癒されていたようです。

また昼休みの間に医学部学生（2名）によるピアノ演奏もありました。

午後からは、平成24年度事業報告、平成25年度事業計画について報告し、その後、懇談会においては、会員からの健康や病気、献体等についての様々な質問に松韻会役員を始め関係教職員がお答えして、総会は盛会裏に終了いたしました。

総会開催に際し、ご協力、ご支援をいただきました教職員及び学生の方々に厚くお礼を申し上げます。



お知らせ

文書実務研修が開催されました

人事課、企画広報課

5月22日（水）に文書実務研修が開催され、事務職員等の平成25年度新規採用者及び希望者の22名が参加しました。

本研修は、文書に関する基礎知識として、文書の書き方、規程等の基礎及び用語の使い方等を学ぶために実施しております。

研修において習得された知識が、業務を遂行する上で十分に発揮されますよう期待しています。



お知らせ

平成25年度自治医科大学公開講座開催のお知らせ

学事課、看護総務課

一般市民を対象とした自治医科大学公開講座も今年で38回目を迎えます。今年は、『予防医療と最新医療』をメインテーマに、本学 地域医療情報研修センター大講堂において、次のとおり全5日の日程で開催いたします。

教職員並びにご家族の方々に参加を希望される方がいましたら、電話またはホームページからお申し込みください。

日程	サブテーマ	演 題		講 師	時 間
7/6 (土)	循環器疾患の 予防と最新医療	1	心臓病の予防	自治医科大学 学長 永井 良三 先生	13:30～14:45
		2	大動脈瘤診療における パラダイムシフト	血管内治療センター 大動脈治療部 齊藤 力 准教授	15:00～16:15
7/13 (土)	自治医大での 最先端の医療と研究	3	肺がんの原因解明が もたらす新しい特効薬	東京大学 大学院医学系研究科 生化学・分子生物学講座 間野 博行 教授	13:30～14:45
		4	iPS細胞が拓く新しい医療： 現状と課題	再生医学研究部 花園 豊 教授	15:00～16:15
7/20 (土)	新薬治療の最前線	5	糖尿病治療の最前線	内分泌代謝学部門 石橋 俊 教授	13:30～14:45
		6	関節リウマチ治療の最前線	アレルギー膠原病学部門 岩本 雅弘 准教授	15:00～16:15
7/27 (土)	ワクチンによる 予防医療	7	子宮頸がん予防ワクチンの 現状とトピックス	産科婦人科学講座 鈴木 光明 教授	13:30～14:45
		8	子どもの健康を守るワクチン	小児科学講座 河野 由美 准教授	15:00～16:15
8/3 (土)	こころの健康	9	多文化間精神医療からみた メンタルヘルス	看護学部 大塚 公一郎 教授	13:30～14:45
		10	ADHD（注意欠陥多動性障害） の理解と対応	小児科学講座 山形 崇倫 教授	15:00～16:15

○受講料：無 料

○申込み受付期間：6月1日（土）受付開始（定員となり次第締切といたします）

○申込み方法：【電話】学事課（内線）3309（ダイヤルイン）58-7044

【ホームページ】<http://www.jichi.ac.jp/extension/index.html>

※電話での受付時間は、平日8時30分～17時00分です。

※ホームページからのお申込みは、随時受付けております。

お知らせ

とちぎ子ども医療センター「花咲jii」が「みどりの愛護」功労者国交大臣賞を受賞しました

経営管理課

とちぎ子ども医療センター園芸ボランティアグループ「花咲jii」が、第24回「みどりの愛護」功労者国土交通大臣賞を受賞しました。

「みどりの愛護」功労者国土交通大臣賞は、花と緑の愛護に顕著な功績のあった民間の団体に対し、その功績をたたえ、国民的運動としての緑化推進活動の模範として表彰されるものです。

今年度は全国から78団体が選ばれ、5月18日（土）、皇太子殿下ご臨席のもと、熊野灘臨海公園「みどりの愛護」のつどいにおいて表彰式が行われました。この表彰式に、花咲jii会長、副会長をはじめ、他に事務局から2名が出席しました。

この度の栄誉は、とちぎ子ども医療センター並びに「花咲jii」にとり、非常に意義深く名誉なことであり、花咲jiiボランティアの皆様の貢献と、職員の皆様のご理解・ご協力の賜物と感謝申し上げます。

なお、この感謝状はとちぎ子ども医療センター外来受付の壁に掲示しておりますのでご覧ください。



高梨副会長（左） 藤岡会長（中央） 冨副事務局長（右）

お知らせ

平成25年度附属病院各種委員会委員長のお知らせ

経営管理課

附属病院の各種委員会委員長が以下のとおり決まりました。

委員会名	委員長
高度先進医療専門委員会	安田 是和
脳死判定委員会	渡辺 英寿
医療用ガス安全管理委員会	竹内 護
薬事委員会	藤村 昭夫
診療保険委員会	三澤 吉雄
リニューアル準備委員会	杉山幸比古
院内感染対策委員会	平井 義一
医療材料審査委員会	渡辺 英寿
臨床検査部運営委員会	谷口 信行
治験審査委員会	大概マミ太郎
中央手術部運営委員会	小西 宏明
中央材料室運営委員会	小黒 恵司
H I V感染対策委員会	外島 正樹
健診センター運営委員会	宮下 洋
総合診療部運営委員会	黒木 茂広
情報システム委員会	小西 宏明
医療安全対策委員会	長谷川 剛
インфекションコントロールチーム	森澤 雄司
輸血療法委員会	室井 一男
集中治療部運営委員会	布宮 伸
遺伝カウンセリング室運営委員会	岩本 禎彦
栄養管理委員会	石橋 俊
診療録管理委員会	小西 宏明
臨床研修管理委員会	安田 是和
医療機器委員会	谷口 信行
臨床工学部運営委員会	三澤 吉雄

委員会名	委員長
放射線管理委員会	杉本 英治
救命救急センター運営委員会	鈴川 正之
中央放射線部運営委員会	杉本 英治
診療情報提供委員会	小西 宏明
患者サービス検討委員会	上野 久子
災害対策委員会	鈴川 正之
医療の質の確保向上に関する委員会	鈴木 光明
クリニカルパス委員会	佐田 尚宏
褥瘡対策委員会	菅原 康志
附属病院個人情報保護検討委員会	興梠 貴英
リハビリテーションセンター運営委員会	関矢 仁
緩和ケア運営委員会	丹波嘉一郎
とちぎ子ども医療センター運営会議	相原 敏則
腫瘍センター運営委員会	藤井 博文
地域医療連携部運営委員会	長谷川 剛
鏡視下手術部運営委員会	佐田 尚宏
DPCコーディング委員会	三澤 吉雄
院内がん登録委員会	佐田 尚宏
NST運営委員会	倉科憲太郎
委託業者評価委員会	吉川 一郎
移植・再生医療センター運営委員会	八木澤 隆
医師及び看護職員の負担軽減、処遇改善検討委員会	佐田 尚宏
放射線治療の品質管理委員会	仲澤 聖則
病院診療機能に関する検討委員会	小西 宏明

お知らせ

外来リニューアルのご案内

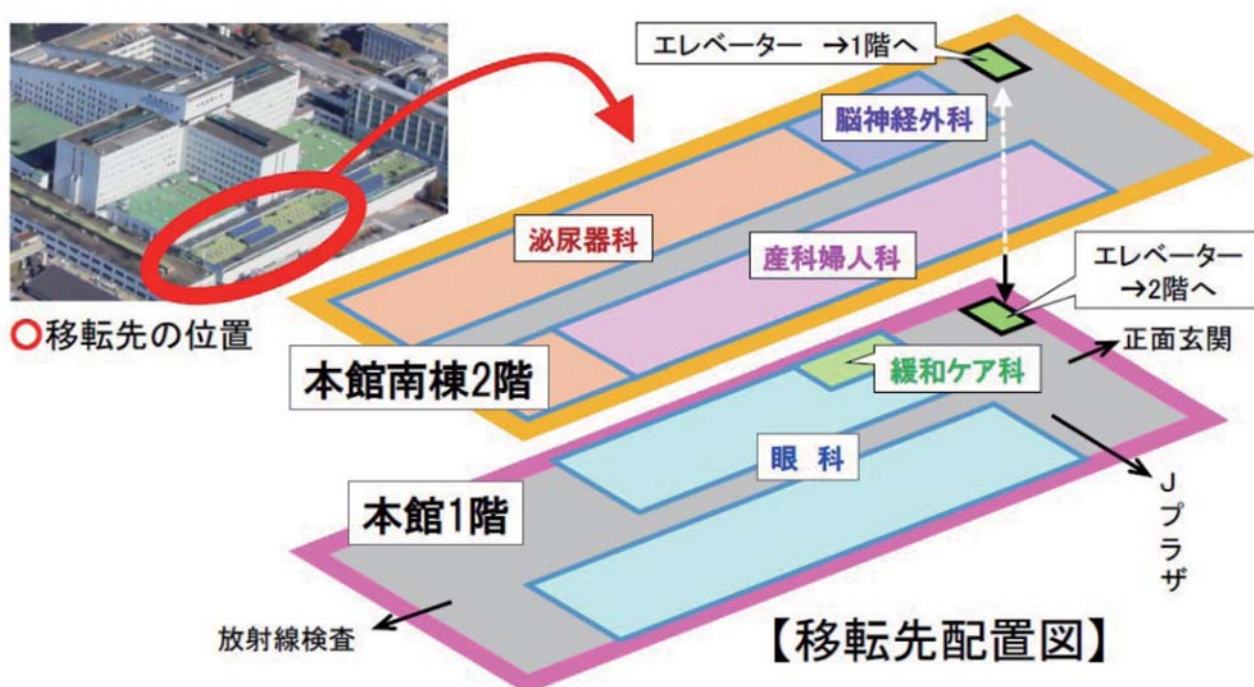
経営管理課リニューアル推進室

外来リニューアルについては、産科婦人科・泌尿器科・脳神経外科(仮)・眼科・緩和ケア科が6月14日に竣工し、7月1日(月)から移転先の本館南棟1・2階にて運用を開始します(下図参照)。そのことにより、工事期間中、通行規制によりご不便をおかけしていましたが1階の医事課受付⇔放射線検査南側間及び、南棟2階⇔西棟2階(皮膚科等)間の廊下が通行可能となります。移転については、通知文・サイン表示等により、来院者への案内を徹底いたしますが、廊下等で行き先を尋ねられましたらご案内方よろしくお願いいたします。

正面玄関工事については、7月中旬に完了し、西側の自動ドアからの出入りが可能となる予定です。

また、次の主な工事区域は、今回移転する本館1階産科婦人科・泌尿器科・脳神経外科・眼科の跡地と、地階の職員食堂・大学書房・同窓会とその周辺です。引き続きご協力をお願いいたします。

移転先での稼働日	対象部署	移 転 先
7月1日(月)	産科婦人科 泌尿器科 仮脳神経外科	本館南棟2階 (旧耳鼻咽喉科・歯科口腔外科外来等の跡地)
	眼科 緩和ケア科	本館1階 (旧小児科外来等の跡地)



お知らせ

効率的な冷房運転にご協力ください ～冷房の開始は6月15日から～

管財課

今年も本格的な夏を迎えるにあたり、冷房運転を次のとおり実施します。省エネルギー及び経費節約を図るため、効率的な冷房運転にご協力ください。

1 冷房期間 原則として6月15日から9月15日まで

(ただし、気温の状態によっては、期間を変更する場合があります。)

2 冷房の標準温度並びに運転時間

区 分	部 門	空調ゾーン	標準温度	運 転 時 間		
				平 日	土曜日	休 日
大学 (本館・教育研究棟)	教 室	講 義 実 習 室	26～28	授業時間計画表による		
	研究室	一 般 実 習 室 基 礎 臨 床 講 座 R I セ ン タ ー	26～28	8:00～18:00	*休 止	休 止
	事務室 その他	事 務 室 そ の 他	26～28	8:00～17:30	休 止	休 止
病院 (本館) (新館) (子ども医療センター)	外 来	外 来	25～27	7:30～17:30	休 止	休 止
	病 棟	病 棟	25～27	24時間		
	中央施設 部門	中 央 放 射 線 部 臨 床 検 査 部 病 理 診 断 部 輸 血 ・ 細 胞 移 植 部 薬 剤 部 ・ 中 央 材 料 室	25～27	8:00～17:30	休 止	休 止
		リハビリテーション	25～27	7:30～17:30	休 止	休 止
		中 央 手 術 部	24～26	7:00～	休 止	休 止
		集 中 治 療 部	25～27	24時間		
	事務室 その他	事 務 室 そ の 他	26～28	8:00～17:30	休 止	休 止
研修 センター	図書館	図 書 館	26～28	8:00～22:00	8:00～22:00	8:00～22:00
	事務室	事 務 室	26～28	8:00～17:30	休 止	休 止

注1：外来・中央放射線部・臨床検査部・中央手術部等の時間外業務の場合は、その都度の事前連絡(管財課に連絡のこと)により延長運転します。

注2：土曜日は、病院部門については依頼により運転します。

また、*印は学事課を経由して依頼があった場合、8：00から14：00まで運転します。

注3：看護学部は、大学に準ずることとします。

注4：健診センターは、病院・外来部門に準ずることとします。

注5：20周年記念棟は、大学事務室に準ずることとします。

3 留意事項

- (1)冷房運転中の室温は、標準温度の範囲内で自動制御運転されますので、室温が標準温度の範囲内にある場合は、室温についての苦情申し出はご遠慮ください。
- (2)冷房に関する要望は、当該所属の代表者又はその代理人が直接行ってください(依頼書が必要になります)。
- (3)冷房期間中であっても、電力使用量が契約電力量を超えるような事態が生じた場合には、冷房を一時中止させていただくこともありますのでご承知おきください。
- (4)教職員は、冷房運転が多量の電力(平常の50%増)を使用することを自覚し、窓や出入り口を開放状態にして冷房負荷を増やすことのないよう省電力にご協力ください。
- (5)冷房は、一般的な部屋の使用条件の下に実施されます。従って、大きな熱を発生する器具を新設する場合には、室温の上昇が考えられますので、このような場合には別途申し出てください。
- (6)冷房時間の延長は、省電力等の関係上原則として行いません。
- (7)冷房に関する照会は、エネルギープラント(内線：3000)へお願いします。

4 節電対策について

診療に影響を与えない範囲で、空調機の停止を実施する場合がありますのでご承知おきください。

永年勤続表彰 おめでとうございます

5月17日(金)、地域医療情報研修センター大講堂において、永年勤続表彰式が行なわれました。今年度は、19名の30年勤続、53名の20年勤続の皆様が表彰されました。

受章者の皆様には、表彰状とあわせて記念品が贈られ、香山理事長並びに永井学長から、永きにわたる本学への貢献に対して労いの言葉が寄せられました。

また、式典終了後は昼食会が催され、受章者を代表して遠藤主任臨床検査技師からご挨拶をいただきました。

受章者の皆様の今後益々の御活躍を期待いたします。

おめでとうございます。



(30年勤続表彰受章者)

氏 名	所 属 名
野 口 典 子	公益財団法人 地域社会振興財団
飛田野 清 美	附属病院病理診断部
熊 倉 隆 子	医学部内科学講座(呼吸器内科学部門)
石 岡 美登子	附属病院看護部外来診療部(第1外来)
石 川 三 衛	医学部総合医学第1講座
前 原 多鶴子	附属病院看護部本部付
遠 藤 進	附属病院臨床検査部
下 崎 真 弓	医学部感染・免疫学講座(ウイルス学部門)
塙 建 夫	総務部総務経理課出納室
泉 玲 子	附属病院薬剤部

氏 名	所 属 名
須 藤 正 樹	総務部総務経理課
井 上 和 子	附属病院看護部本部付
小 幡 隆	附属病院輸血・細胞移植部
鈴 木 智 子	附属病院病理診断部
馬 場 千恵子	附属病院看護部本部付
小 堺 一 則	附属病院中央放射線部
原 典 子	医学部外科学講座(消化器外科学部門)
鶴 見 眞理子	附属病院医療安全対策部
松 枝 健 一	大学事務部研究支援課



(20年勤続表彰受章者)

氏 名	所 属 名
岡 崎 仁 昭	医学教育センター
野 澤 武 志	附属病院企画経営部医療情報部
秋 山 由美子	附属病院看護部救命救急センター
太 田 恵理子	医学部生化学講座 (機能生化学部門)
小野寺 敏 江	附属病院臨床検査部
柳 田 美 樹	附属病院病理診断部
高 岡 俊 子	附属病院看護部外来診療部 (第1外来)
大 澤 かおる	附属病院リハビリテーションセンター
中 村 啓 子	附属さいたま医療センター中央診療部臨床検査部
星 野 え み	附属病院看護部中央放射線部
半 田 知 子	附属病院看護部外来診療部 (第1外来)
倉 持 貴 子	附属病院看護部外来診療部 (第2外来)
藤 田 伸 恵	さいたま医療センター事務総務課
堀 内 けい子	附属病院看護部4階A病棟
野 澤 いずみ	医学部皮膚科学講座
関 千 里	医学部感染・免疫学講座 (医動物学部門)
田 村 恵理子	附属病院看護部外来診療部 (第2外来)
有 村 理 美	附属病院看護部3階A病棟
松 原 宮 子	総務部総務経理課
小野口 裕 子	病院事務部経営管理課
玉 田 喜 一	医学部内科学講座 (消化器内科学部門)
佐々木 純 子	附属さいたま医療センター看護部外来
河 野 幹 彦	医学部総合医学第1講座
仲 澤 聖 則	附属病院中央放射線部
簀 田 清 次	医学部内科学講座 (アレルギー膠原病部門)
渡 井 恵	附属病院看護部小児集中治療部
穂 積 康 夫	医学部外科学講座 (一般外科学部門)

氏 名	所 属 名
渡 辺 尚	附属病院総合周産期母子医療センター 母体・胎児集中治療管理部
鈴 木 伸 之	附属病院看護部4階西病棟
大 谷 義 昭	病院事務部医事課
吉 岡 崇 幸	附属病院薬剤部
田 中 純	附属病院看護部3階南病棟
進 藤 聖 子	附属病院輸血・細胞移植部
岡 弘 貴	附属さいたま医療センター中央診療部中央放射線部
宮 田 祐 一	病院事務部用度課
永 見 健	附属病院中央放射線部
三ツ橋 美 幸	附属さいたま医療センター中央診療部臨床検査部
浅 子 瑞 穂	附属さいたま医療センター中央診療部臨床検査部
飯 田 久 子	附属病院看護部8階西病棟
高 橋 千亜紀	附属病院看護部7階B病棟
佐 藤 裕 厚	附属病院中央放射線部
大 槻 郁 子	附属病院輸血・細胞移植部
柳 田 浩 己	附属病院臨床検査部
佐 藤 文 生	附属病院中央放射線部
田 島 桂 子	附属病院臨床検査部
酒 井 利 育	附属さいたま医療センター中央診療部臨床検査部
手 塚 芳 美	附属病院看護部5階東病棟
田 崎 泰 広	附属さいたま医療センター医療情報部管理事務室
佐 藤 正 人	大学事務部学事課
小 川 孝 志	さいたま医療センター事務部医事課
菅 野 一 枝	附属さいたま医療センター看護部看護部付
大 澤 博 之	医学部内科学講座 (消化器内科学部門)
早 瀬 行 治	附属病院卒後臨床研修センター

随 感



病院において看護業務は、患者さんとの関わりが非常に大きく、精神的にも大変な仕事ですが、皆さんどんな方法で気分転換をされているのでしょうか。

今月号の随感とは、さいたま医療センターの金沢看護副部長です。

仕事と趣味の関係についてお話しいただきました。

「仕事と趣味」「趣味と仕事」どっち？

附属さいたま医療センター
看護副部長

金 沢 千恵子

仕事とは「何かを作り出すこと、または、成し遂げるための行動・生計を立てる手段として従事する事柄・職業」であり、趣味とは、「人間の自由時間（生理的・必要時間と労働時間を除いた時間・余暇）に好んで習慣的に繰り返し行なう行為」とWikipediaには明記されています。

それでは、私にとって「仕事と趣味」とはどんな関係なのか考えてみたいと思います。誰でもが、仕事をしながら、趣味や余暇を楽しんでいるのではないのでしょうか。それはなぜかと言うと、趣味は、気分転換や息抜きができ、仕事でのストレスが軽減され、明日の仕事への意欲につながると考えています。

私の仕事は看護業務であり、自治医科大学附属病院（以下附属病院）に新人看護師として脳神経外科病棟に就職したことから始まりました。

当時小児外科が開棟しておらず増床を続けていた最中でしたので、新人看護師も毎年100人以上の採用があり、脳神経外科にも7人の新人看護師が配属となりました。その当時の指導はプリセプター体制ではなく、その都度先輩看護師に指導を受け、そして先輩看護師の技術を盗みながら仕事を覚えて行った記憶があります。また、看護補助員さんとの交流も深く、社会人として未熟な私達に、「草もち」や「おはぎ」を朝早くから作ってくださり、仕事の開始前の時間や昼休みに頂くのが楽しみのひとつでした。今振り返るとただ美味しく頂いていましたが、私たちに、日本古来の慣習や季節感を大切に、手作りの良さ、更には家庭の温かさを教えていただいた気がします。今まさに言われている「社会人基礎力」について仕事を通して看護補助員さんに教わっていた気がします。そのため、仕事がつらいとか、辞めたいという気持ちをまったく感じることなく過ごさせていただきました。

その後、呼吸器内科病棟へ異動となり、今までの看護技術やコミュニケーションを活用して看護にあたりましたが、呼吸器内科の患者さんには受け入れてもらうことが大変難しく、改めて看護における個別性の必要性和、奥深さを知り、自分の看護のあり方について考える機会となりました。また、その当時の最先端医療であってもどうしても助けることができず、他界していく患者や家族の皆様を目の前にして本当にこれで良いのか、これ以上できることはないものかと日々思う毎日であり、自分の心の弱さと辛さに直面し挫折感を味わうこともありとても辛い時期でした。

その後主任看護師となり、私の役割は、看護師が働き続けられる職場環境を作り、退職率を下げることでした。主任業務が十分に果たせるに至らないうちに看護師長となり、日々先輩師長に、病棟の看護の責任者としての心構えや態度について指導を受けながら師長業務や役割について習得できるようになっていきました。大変ではありましたが充実感を味わった気がします。

そして、平成6年にさいたま医療センター（以下センター）へ異動となり、循環器内科・心臓血管外科の混合病棟への所属となりました。施設やシステムの違いもあり、不安がありましたが、附属病院のときに呼吸器内科の実習に来ていた学生が立派な看護師となっており、久しぶりの再開にお互い驚き意気投合し、良い連携をとりながら仕事に取り組むことができました。そのとき改めて人間関係の大切さを痛感させられました。

その後は集中治療室、外来、中央手術部と経験をさせていただき、今年度、看護副部長としてベッドコントロー

ル担当となり、大変重要な役割であると認識しているところです。

少し長々と仕事のことを書きましたが、次に楽しみである趣味のことについて書いてみたいと思います。

趣味の始まりは、看護師としてある程度の仕事ができるようになった時であります。もともとスポーツ好きのお転婆娘であった私は、女性らしさを身につけるために、茶道・華道・着付け等を習得することが女性として必須であると考えました。女性のたしなみとして始めた手習いでしたので、約10年位で一段落を付けることになりました。このことは、現在の日常生活の中でも活用することができていますが、習い事の目的である女性らしさを獲得できたかは疑問が残るところです。

もともと、スポーツ好きの私が長年やっている趣味のなかにゴルフがあります。ゴルフをすることになったきっかけは、附属病院勤務後10年位経過した頃、世の中でゴルフがブームとなり、それに乗ったかっこうです。病院内のゴルフコンペに参加させて頂き、先生方をはじめ、事務職員の方、看護補助員さんとの交流を持ちながら行ったことが、とっても楽しく、私の趣味にマッチしました。

その後、センターに異動となり、仕事に慣れてきた時に、センター内のゴルフコンペを通じて、先生方、事務職員の方、医療技術関係の方、警備の方々とも、同じように交流をさせていただき短時間の中で人間関係を広げることができました。これもひとえに趣味がもたらした仕事へのメリットと考えています。そこで、折角やるのであるならもう少し上手になりたいと思い、ゴルフをスポーツとしてやっていこうと考えました。スポーツとしてやっていくためには、基本的な知識・ルールを知り、身体の強化をするために、練習は必須の条件です。そのためには、指導してくれる人が必要となり、さいたま市内の練習場を少なくとも7箇所位めぐり、指導してくれる人にめぐりあえました。

指導してくれる人の「教える条件」がありました。

1. 中途半端に投げ出さないこと。
2. ゴルフに男女差はないので、女性だからと言って甘えないこと。
3. 注意や指導によりメソメソしないこと。

でした。

指導されたことがなかなかできずに、悔しく涙することもできず、前向きでない態度には、厳しい叱りを受けこともありましたが、自分で望んだことですので、困難に立ち向かっていかなければなりません。時には、何でこれが趣味なのかと思ったことがありました。練習の効果は中々出ませんでしたが、数年後に、ホームコースの月例等で何度となく優勝することができハンディキャップもシングルとなり、練習の効果が出てきました。しかし、これからシングルを維持することは更に大変なことです。

私の仕事と趣味を書いてみましたが、仕事と趣味を振り返ると、以下のような共通点が多いということが分かりました。

1. 人とのつながりが広まる（協調性・人間関係等）ことです。

仕事もゴルフも人とのつながりが大切です。試合ともなれば、知らない同士4人が朝の挨拶から始まり、ルールを守り、昼食を伴にし、コミュニケーションをとりながら18ホール回ることになります。また、職種、職位、男女関係なく人との交流ができます。人と人とのつながりは、初対面の患者・家族とのつながりや、医療従事者及び、センターに出入りするすべての皆様に対しての関わりも同様であると考えています。

2. 知識・技術を磨くために、前向きに謙虚に努力することです。

看護師としての仕事を覚えるには、基礎知識が大切であり、人の話を良く聞き、知識・技術を磨き、良き先輩の指導や導きにより、繰り返し練習し、経験を重ねていくことが重要であります。ゴルフも上手になるためには、まずプレイヤーとしてのマナーや規則を守り、基礎知識・基礎練習を繰り返し、前向きに謙虚に経験を重ねていくことが必要です。

仕事も趣味も入り込めば入り込むほど厳しさもあり、楽しさもあり、趣味の厳しさも分かり、現在では、更に仕事の奥深い厳しさも分かってきたように思います。

今回、「仕事と趣味」「趣味と仕事」というタイトルで、仕事と趣味の共通点などを自分なりに書いてみました。仕事にも、趣味にも大切なことは、自分自身をコントロールすることであると考えています。

今後は、困難であろうと思われるベッドコントロールについても、職員の皆様のご理解・ご協力を得ながら、前向きに取り組んで行きたいと思います。

第42回薬師祭実行委員会からのお知らせ

薬師祭実行委員会、学生課、看護学務課

<第42回薬師祭開催にあたって>

・実行委員長挨拶

第42回薬師祭実行委員長 医学部5年 榎木康人

自治医科大学医学部5年の榎木康人です！この度、第42回薬師祭実行委員長を務めさせていただくことになりました。今年で42回を迎える薬師祭のテーマは「彩（いろどり）～ paint your color ～」です。薬師祭へお越しくださる皆さんの「色」と、自治医大の学生の「色」とが混ざり合って、さらに彩りのある学校祭になるようにとの願いが込められています。10月11日（金）、12日（土）、13日（日）は是非、自治医科大学薬師祭に遊びに来てください！

皆様のご来場を心よりお待ちしております。

・一般企画団体募集のお知らせ

今年度も、12日（土）・13日（日）に出店、展示、ステージ企画等に参加してくださる大学の教職員の皆様を募集しております。

参加をご希望の方は、後日各教職員の方々の所属メールボックスに案内を配布させていただきますので、そちらに従って参加申し込みをしていただくようお願いいたします。その他、参加についての質問等がございましたら、以下の連絡先までお問い合わせください。

たくさんの方々のご参加をお待ちしております。

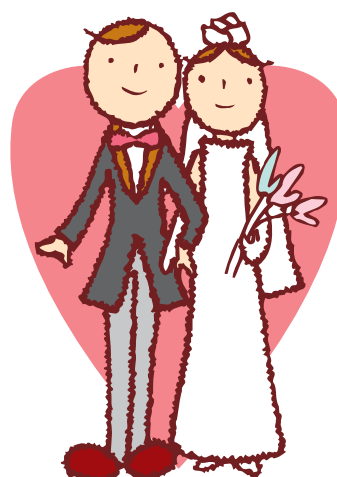
一般企画部門長 医学部4年 水野隼人

連絡先：ippan-kikaku@jichi.ac.jp

ご結婚おめでとうございます

看護部 (4階A病棟)	
香川真裕子さん	4/18
看護部 (8階A病棟)	
岡部 剛さん	4/19
看護部 (NICU)	
有野 美香さん (旧姓・大瀧)	4/20
移植外科	
平田 雄大さん	4/21
看護部 (7階東病棟)	
平田麻里江さん (旧姓・小島)	4/21
看護部 (2階A病棟)	
有川ちづるさん (旧姓・中田)	4/24
看護部 (ICU)	
八木沢真理子さん	4/26
看護部 (ICU)	
糸川 佐和さん (旧姓・出井)	4/27
看護部 (4階西病棟)	
八木橋仁聖さん (旧姓・田中)	4/30

さいたま・眼科	
田中 克明さん	5/1
薬剤部	
海老沼慶一さん	5/3
看護部 (4階東病棟)	
加藤のどかさん (旧姓・柳田)	5/21



お誕生おめでとうございます

看護部 (6階A病棟)	
近藤留美子さん ^{かほ} 花帆ちゃん (女)	3/23
さいたま・看護部 (5階A病棟)	
岡本 美華さん ^{こうき} 航輝ちゃん (男)	3/29
看護部 (第2外来)	
高山 美佳さん ^{めい} 芽生ちゃん (女)	4/7
看護部 (2階B病棟)	
栃木 まゆさん ^{しんのすけ} 心之介ちゃん (男)	4/15
看護部 (2階A病棟)	
玉田 淳子さん ^{さゆ} 彩結ちゃん (女)	4/17
看護部 (2階A病棟)	
田村 彩さん ^{みはる} 美陽ちゃん (女)	4/25
地域医療連携部	
三宅 由美さん ^{かんた} 寛汰ちゃん (男)	4/27
さいたま・総合診療科、さいたま・小児科	
大沼 哲さん	
大沼 奈央さん ^{しゅん} 駿ちゃん (男)	4/27

さいたま・看護部 (CCU)	
佐藤 史淑さん ^{いつき} 那樹ちゃん (男)	4/27
救命救急センター	
三浦久美子さん ^{まゆい} 真結ちゃん (女)	5/4
リハビリテーション部	
門手 和義さん ^{いつく} 慈ちゃん (男)	5/16



患者数状況

附属病院

区分 月	外 来 患 者 数				入 院 患 者 数			
	延 数 (人)		一日平均 (人)		延 数 (人)		一日平均 (人)	
	25年	24年	25年	24年	25年	24年	25年	24年
1 月	52,762	51,592	2,777	2,715	26,820	26,873	865	867
2 月	51,739	52,407	2,723	2,758	25,727	27,276	919	941
3 月	57,444	56,905	2,872	2,645	27,920	29,081	901	910
4 月	56,173	52,214	2,675	2,611	25,990	27,858	866	929

附属さいたま医療センター

区分 月	外 来 患 者 数				入 院 患 者 数			
	延 数 (人)		一日平均 (人)		延 数 (人)		一日平均 (人)	
	25年	24年	25年	24年	25年	24年	25年	24年
1 月	26,533	25,787	1,396	1,357	13,571	12,746	438	411
2 月	26,104	27,209	1,374	1,296	12,900	12,766	461	440
3 月	28,857	29,252	1,443	1,393	14,354	13,488	463	435
4 月	28,704	26,095	1,367	1,305	14,053	13,146	469	438

協栄会 瓦版

Jun

[協栄会からのお知らせ]



[超大型宝くじ「ロト7」好評発売中!! 毎週金曜日が抽選日]

●正職員募集のお知らせ

◆募集職種

事務職

◆採用人数

2名

◆業務内容

(一財) 自治医科大学協栄会における管理運営及び一般事務

◆応募資格

22歳～35歳位(男性) 大卒程度

◆試験日程

次により採用試験を実施します。詳細につきましては、応募締切り日以降、応募者あてに通知いたします。
応募者多数の場合は書類選考を実施いたします。

試験日程

筆記試験 平成25年8月9日(金) 一般教養試験 作文試験

上記選考の結果、合格者については、後日、第二次試験(面接試験、適性検査)
第二次試験合格者については、健康診断書を提出する。

◆応募方法

次に掲げる応募書類を総務課総務係まで提出してください。
郵送でも持参でも構いません。

提出期限(必着)	応募書類	
平成25年7月31日(水)必着 持参の場合は、同日17時まで	1. 履歴書	A4判又はA3判とする。 両面印刷、B判のものは不可。
	2. 返信用封筒	長3サイズ (約120mm×235mm) 80円切手貼付 宛先明記のこと (氏名の後に「様」と記載)
	3. 卒業証明書、成績証明書	

[J プラザ 2F において、出店業者による販売を実施しておりますので、こちらも併せてご利用ください]

◆勤務条件

1. 勤務日	平成 25 年 10 月 1 日 (火)
2. 勤務地	次のいずれかの勤務地を協栄会が指定することとなります。 (1) 自治医科大学協栄会 栃木県下野市薬師寺 3311-1 (JR 自治医大駅から徒歩 10 分) (2) 自治医科大学附属さいたま医療センター内 (株) 協栄 埼玉県さいたま市大宮区天沼町 1-847 (JR 大宮駅からバス 10 分)
3. 給与	国家公務員に準じて支給されます。 大学卒初任給 169,500 円 (平成 24 年度参考) ※諸手当、地域調整手当 [栃木県 3%、埼玉県 12% (平成 24 年度実績)] 別途支給
4. 勤務時間	原則として平日午前 8 時 30 分から午後 5 時 15 分まで
5. 休日	完全週休 2 日制、祝祭日、年末年始、自治医科大学創立記念日 (5 月 14 日)
6. 休暇	年次有給休暇年 20 日 (10 月採用者は 5 日) の他、傷病休暇、特別休暇等、国家公務員に準じた制度があります。
7. 厚生施設	自治医科大学の厚生施設 (日光研修所、北軽井沢山荘等) が利用できます。
8. 賞与	年 2 回 計 3.89 ヶ月 (前年度実績)
9. 保険	雇用保険及び社会保険に加入
10. 定年	60 歳 (再雇用制度あり 65 歳まで)

～自治医科大学協栄会事業～

当財団は、教職員、学生及び患者様等へ便宜の供与を行う目的で、1972 年 (昭和 47 年) に設立されました。

事業で得た収益金は、自治医科大学の医療環境の整備向上を図るための調査研究助成、患者様のアメニティに係る機器、什器等及び地域医療支援等に活用されております。

主な事業として、患者給食・ファミリー・簡易郵便局・レストラン・書店・旅行社・理容室・生花店・介護用品店・病棟テレビ・公衆電話・自動販売機設置等を行っております。

応募の詳細については、総務課総務係まで、ご照会ください。

〒329-0498

栃木県下野市薬師寺 3311-1

一般財団法人 自治医科大学協栄会 総務課総務係 担当 上野、矢口

電話 0285-44-6681



「日光研修所 & 北軽井沢山荘」

ご家族・ご友人をお誘いあわせのうえ、ぜひお出かけくださいませ。お問い合わせにつきましては、協栄会内線 2023 をお願いいたします。



川柳こらむ

No.234

いいかげんな人だ詩人と呼ばれたり

(草地 豊子)

詩人と呼ばれる職業の人は、日本全国で一体どれくらい存在するのか、ほとんど見当もつかない。意外に多くても少なくても、身近に詩人がいてもいなくても、詩人と呼ばれば、一般的には絵描きと同じようにベレー帽なんかが似合いそうなイメージを安易に浮かべたくなるが、実態としては、この句にあるようにいいかげんという印象を組み合わせてもおかしきはない気がしてくる。詩人がいいかげんなのか、いいかげんな人間だから詩人になれるのか。少なくとも、言葉に対していいかげんな性格では詩人になれない。さらに、詩人だからいいかげんに暮らしているようなことも、ある程度想像できるだろうか。だからこういう句のような事態が起きて、さほど不自然ではない感じがしてくる。

どこまでが近所なのか分からない

(小佐野 昌昭)

近所という概念の守備範囲を哲学的に考察しているのかもしれない。向こう三軒両隣などといったりするが、近所とは、必ずしもこれに収まるものではない。一つの自治会あるいは同じ班内といえども、機械的に自分の家の近所を定義づけることは難しい。家族の中でも、お父さんとお母さんでは考えが違ったりかもしれないし、子供や祖父母の行動範囲も区々だろう。人付き合いに基づいた近所を厳密に定義することは、国語辞書をひいてもあまり意味のない、極めて主観的かつ相対的なものである。

鶏が卵より先 親だもの

(中筋 弘充)

鶏が先か卵が先かの論争は、なんと川柳という十七音の世界において結論が出された。そう驚いてもいいような句である。やはり「親だもの」というフレーズには誰でも弱い。誰しも反論できない。育児放棄するような親が増える世の中にあっても、「親だもの」の一言の重み

はまだ変わらない。

違うのに違うと言えぬボタン穴

(高瀬 霜石)

ボタンの掛け違いを周りが見つけてしまい、この句のような台詞を吐いた、そう解釈しては、作品を味わう上でいま一つ拡がりが出ない。ここは、ボタン穴自身がそういう思いを抱いていると考えた方がおもしろくなってくる。同じように見えるボタン穴でも、ボタン穴にはそれぞれ決まったボタンという相手がいるのである。食前と食後では位置が異なるベルトの穴とは大違い。寝坊していくら慌てて身繕いしたとしても、ボタンとボタン穴の関係はぞんざいに扱ってはいけない。ボタン穴だけでなくボタンの方も、実は少し怒っているのかもしれない。



番組欄見るとテレビが観たくなる

(田中 けいこ)

何につけ、物事は逆さまにして考えてみる。テレビを観たいから新聞の番組欄を見るのではなく、この句にあるとおり、人間の欲求の心理はその反対なのだと思ってみる。あまりにも退屈でどうしようもなくいる茶の間、その目の前にテレビが鎮座していても、新聞がなければ、案外テレビのリモコンに手を出そうとする気にはならないのではないか。そんなことより、どこか一人で気晴らしに出掛けようと思ったりするのもかもしれない。新聞を読み始めて最後の番組欄さえ見なければ、暇な時間におけるテレビの存在なんて大したものではないのだらう。

「引用句はすべて「川柳展望」(No.153・2013春／大阪)から」(文&絵 三上博史&長江一彦)

編集委員会より

読者の皆様の声をお聞かせください！

学内広報編集委員会では、より良い広報誌作りのために、読者の皆様からのご意見やご提案を募集しています。

掲載された記事に対するご感想、今後お読みになりたい記事のご要望、「随感」や「教室・職場案内」に登場してほしい執筆者やテーマのご推薦などもお待ちしております。

方法は、次のいずれでも結構です（匿名可）。より身近で有用な「学内広報」作りに、是非、皆様もご参加ください。

Tel：内線 3431

外線 0285-58-7026

Fax：0285-44-8169

E-mail：gakunaikouhou@jichi.ac.jp

mail form：本学HP内に学内広報編集委員会
あてmail formを設置しましたので、
ご意見投函にご利用ください。

本学HP→学内向け→企画広報課

[担当：企画広報課（高巢）]

附属病院の理念・基本方針

[理念]

- 1 患者中心の医療
- 2 安全で質の高い医療
- 3 地域に開かれた病院
- 4 地域医療に貢献する医療人の育成

[基本方針]

- 1 患者の皆様の立場に立った人間味豊かな医療を提供し、情報公開を積極的に推進します。
- 2 患者の皆様に、安全で、かつ、根拠に基づく質の高いチーム医療を提供します。
- 3 地域の医療機関との連携を深め、高度で先進的な医療を提供します。
- 4 地域医療に気概と情熱を持ち、全人的な医療を実践する医療人を育成します。

附属さいたま医療センターの理念・基本方針

[理念]

- 1 患者中心の医療
- 2 安全で質の高い医療
- 3 地域に根ざした医療
- 4 心豊かな医療人の育成

[基本方針]

- 1 患者の皆様を尊重し、開かれた安心できる医療を提供します。
- 2 チーム医療を推進し、安全で質の高い医療を提供します。
- 3 地域との連携を深め、基幹病院としての役割を果たします。
- 4 地域医療に貢献する医療人を育成します。

記事募集のお知らせ

「お知らせ」、「随感」、「教室・職場案内」など、学内広報掲載記事を随時募集しています。写真や絵の投稿も歓迎します。

通常の「お知らせ」記事は、原則として

- ・毎月25日締切
- ・翌月10日付け発行号に掲載

となります。

詳しくは、企画広報課（内線：3431）までお問合せください。

編集後記



関東甲信地方が梅雨入りしました。これは平年より10日早いそうです。梅雨入りしたものの、晴れの日が多く、洗濯物が気がかりな主婦にはうれしい梅雨の中休みですね。

ところで、上野動物園のジャイアントパンダ「シンシン」に妊娠の兆候がみられるとのこと。偽妊娠の可能性もあるとのことですが、元気な赤ちゃんの誕生が待ち遠しいですね。（Y's）